

窒素施肥体系の違いが水稻「黄金晴」の
収量および収量構成要素に及ぼす影響

牧野義雄・糸瀬貞義*

窒素施肥法の違いが、香川県の奨励品種である水稻「黄金晴」の収量および収量構成要素に及ぼす影響を検討した。

1. 穂数は、基肥窒素量が多く、穂肥窒素施用時期が早いほど増加した。
2. 一穂粒数は、穂肥窒素施用量が多いほど増加した。
3. 千粒重は、穂肥窒素施用時期が遅いほど増加した。
4. 登熟歩合は、穂肥窒素施用量が少なく、穂肥窒素施用時期が遅いほど向上した。
5. 単位面積に当たり粒数と登熟歩合との間の補償作用によって、窒素施肥法の違いによる玄米収量の変動は、ほとんどみられなかった。